

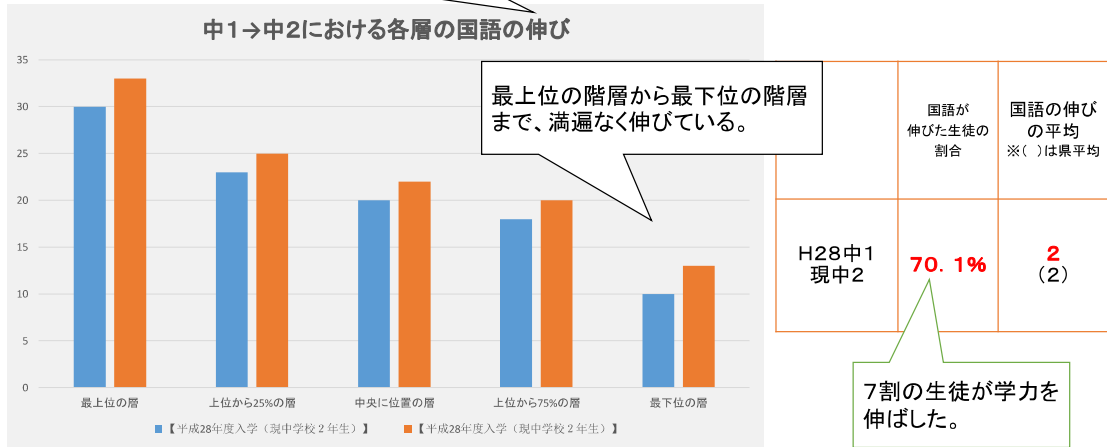
平成28・29年度  
学力向上研究校指定事業

草加市立新栄中学校

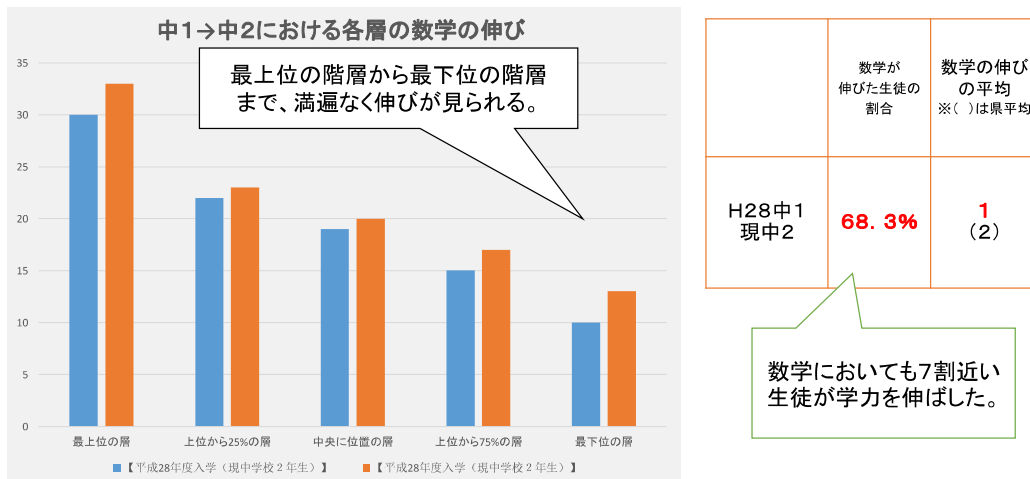
平成29年度  
埼玉県学力・学習状況調査 結果

## 埼玉県学力・学習状況調査より 2年生 国語

学力・学習状況調査の結果を  
5階層に分けた結果



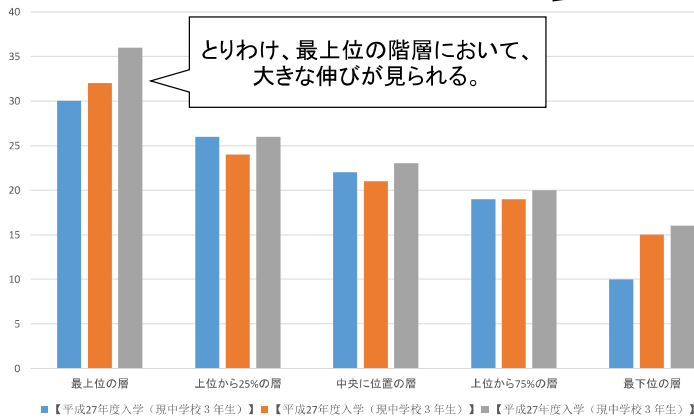
## 埼玉県学力・学習状況調査より 2年生 数学



## 埼玉県学力・学習状況調査より 3年生 国語

学習状況調査の成績を5層に分けた中でも、最上位の階層から最下位の階層まで、満遍なく伸びている。

中1→中3における各層の国語の伸び



とりわけ、最上位の階層において、大きな伸びが見られる。

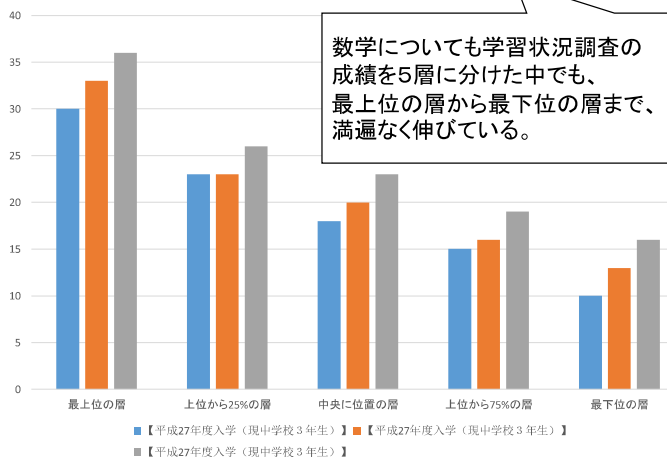
	国語が伸びた生徒の割合	国語の伸びの平均 ※( )は県平均
H28中2 現中3	<b>64.2%</b>	<b>1</b> (2)

6割以上の生徒が学力を伸ばすことができた。

中2から中3の1年間で、どの階層の生徒も学力を伸ばすことができた。

## 埼玉県学力・学習状況調査より 3年生 数学

中1→中3における各層の数学の伸び



数学についても学習状況調査の成績を5層に分けた中でも、最上位の層から最下位の層まで、満遍なく伸びている。

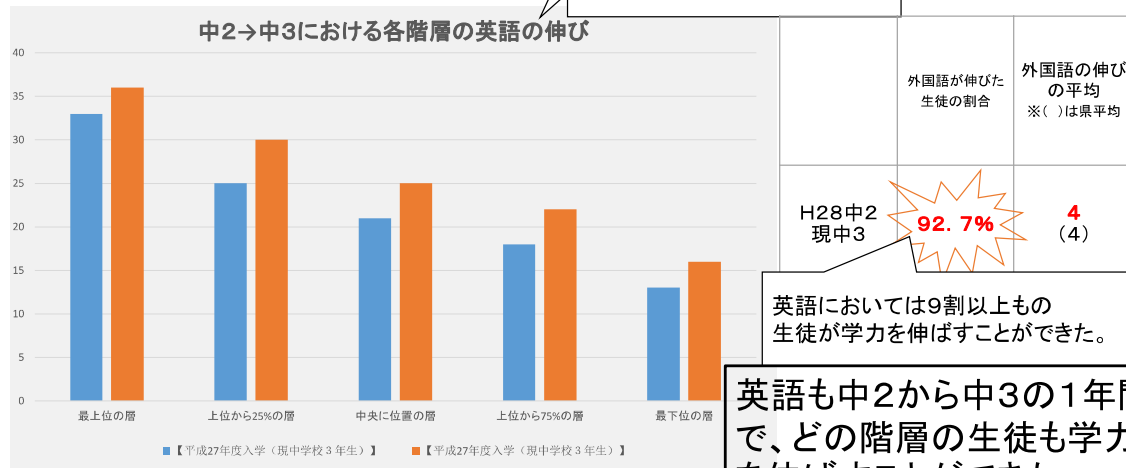
	数学が伸びた生徒の割合	数学の伸びの平均 ※( )は県平均
H28中2 現中3	<b>85.9%</b>	<b>3</b> (2)

8割以上の生徒が学力を伸ばすことができた。

数学も中2から中3の1年間で、どの階層の生徒も学力を伸ばすことができた。

## 埼玉県学力・学習状況調査より 3年生 英語

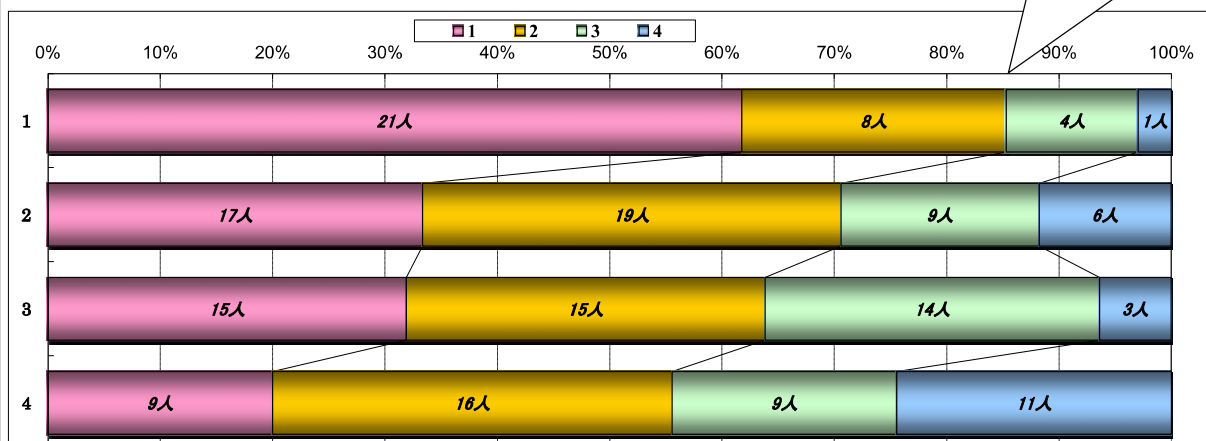
英語についても学習状況調査の成績を5層に分けた中でも、最上位の階層から最下位の階層まで、満遍なく伸びている。



## 県学力・学習状況調査 英語3年生

縦軸 英語の学力階層  
横軸 英語の伸びの階層

各階層、伸びている生徒が50%をこえている。どの階層も満遍なく伸びていることが分かる。



## 埼玉県学力・学習状況調査の結果より

- 平成29年度調査では、各学年で前年度と比較して多くの教科で学力に伸びが見られた。
- 3年生はどの学力階層の生徒も2年間で学力を伸ばすことができた。
- 3年生は特に中学2年生から中学3年生までの1年間で、どの教科も大きな伸びが見られた。
- 中学1年生は国語・数学ともに良い結果を得ることができた。

## 研究主題

### 「基礎的基本的な学力の向上を 目指す指導方法の工夫」

- ① 学習意欲の向上と学習習慣の  
定着を基盤として
- ② 小中連携の強化による  
学力の向上を目指して

## 本校の生徒の実態

### 【強み】

- 素直で誰に対してもあいさつができる
- 部活・行事にみんなで全力で取り組む
- 授業に真剣に取り組む

### 【課題】

- 基礎的基本的な知識・技能
- 学習意欲(家庭学習等)
- 活用する力

学習面では課題がある

学校生活をより充実させるには  
生徒一人一人の学力向上が不可欠

## 研究仮説と生徒像

### 研究仮説

- ① 授業のめあての明示、振り返りと、グループ学習を中心とした生徒の主体的な学びを進め、家庭学習の習慣を身に付けさせれば、生徒は学習に意欲的に取り組み、学んだ知識・技能を活用できるであろう。
- ② 小中の連携を強化し、乗り入れ授業を充実させ、取組を発展させていけば、学習意欲が高まり、生徒の学力が向上するであろう。

### 目指す生徒像

- 基礎的な知識・技能を習得している生徒
- 学習習慣の定着している生徒
- 自ら学び、学習した内容を活用・表現することができる生徒

## 具体的な取組

- ①学力向上に向けたわかる授業への工夫
- ②小学校との連携の強化
- ③スキル学習
- ④1日1ページの家庭学習
- ⑤基礎学力テスト
- ⑥定期テスト前の取組
- ⑦SQSアンケート
- ⑧生活面での指導

## ①学力向上に向けたわかる授業の工夫

学校全体としての取組

○「草加っ子の学びを支える授業の5か条」を軸として授業を展開している。

- ①学習の目標(めあて)を明らかにする。
- ②児童生徒が自分で考える時間を設ける。
- ③児童生徒が表現と交流をする場を設ける。
- ④学んだことを活用する場を設ける。
- ⑤学習のまとめと振り返りの時間を設ける。

○授業ではねらいやめあてを明示する。

○授業の終わりには振り返りの時間を設けている。

○協調学習の取組として、本校ではグループ学習を中心に生徒の自主的な学びを授業で大切にしている。

## 取組の例(保健体育科 ねらい、めあてを掲示する)



授業のねらい、めあてをどの教科でも明示している。

授業のねらいだけでなく、授業の流れも明示し、1時間の流れをわかりやすくしている。

## 取組の例(美術科の振り返り)

1 / 27	目標	しゅけいしんを完成し、発表の準備を済ませる。
(次) 10.27	振り返り	発表の準備ができた。発表の準備ができた。
1 / 27	目標	しゅけいしんを完成し、発表の準備を済ませる。
(中) 10.27	振り返り	発表の準備ができた。発表の準備ができた。
/	目標	
( )	振り返り	
/	目標	
( )	振り返り	
/	目標	
( )	振り返り	
/	目標	
( )	振り返り	

本時の目標をたてて、学習や作業に取り組ませる。

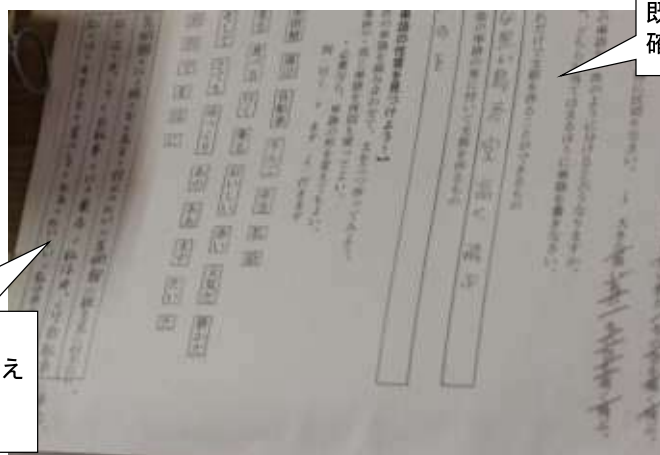
振り返りでは、具体的にわかった内容、作業から学んだことを書かせるように指導をしている。



## 国語科の取組

- 授業の中で、根拠となる記述を明らかにして自分の意見をまとめる。
- 発表する場や話し合いの場を意図的に設定し、他の意見を聞き、自分の考えを深め、発表する力を養う。
- 辞書を活用し、語彙を増やす。
- 漢字練習や漢字テストの継続を行い、読み書きの定着を図る。
- 作品を掲示し、お互いの考えを知り、理解を一層深める。

## 国語科の取組の例(考えをまとめる)



既習事項の  
確認

既習事項から、自分の考え  
をまとめている。

## 国語科の取組の例(話し合い)



隣の人と話し合いの活動  
自分の意見、考えを発表する。

他の人と話し合いを通して  
考えを深めることができる。

## 国語の作品掲示の例



様々な人の作品を見ることで、互いの  
考えを知り、理解をより一層深めること  
につながっている。

## 数学科の取組

- 教師主導型の授業ではなく、アクティブラーニングの視点を取り入れた生徒主体の授業
- 日常の事象と関連を図った課題の設定
- 数学への興味・関心・意欲を高めるための実物やICTの活用
- 毎授業での振り返り
- ティームティーチングを通しての個別の学習支援
- 小テスト等の実施
- 適宜の補習
- 小学校への乗り入れ授業→現中1に大きな成果

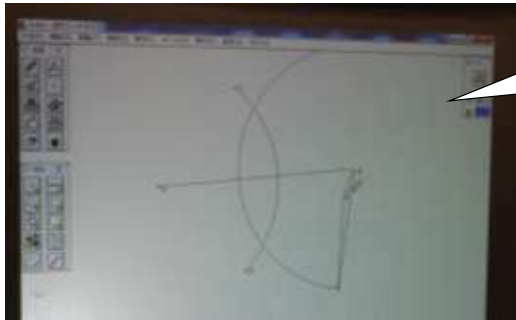
## 数学科の取組の例(具体的な場面での課題)



中学1年生の作図の  
最短距離を考える課題

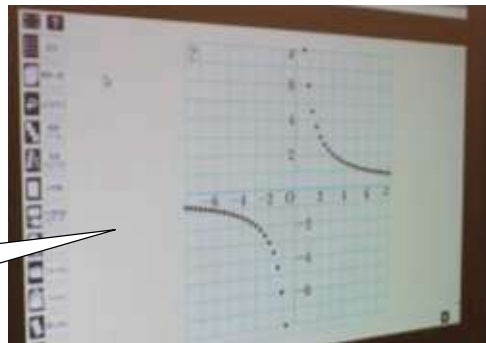
具体的な場面から、生徒の関心を高め、  
イメージを持たせた上で、課題に取り組ま  
せている。

## 数学科の取組の例 (ICTの活用例①)

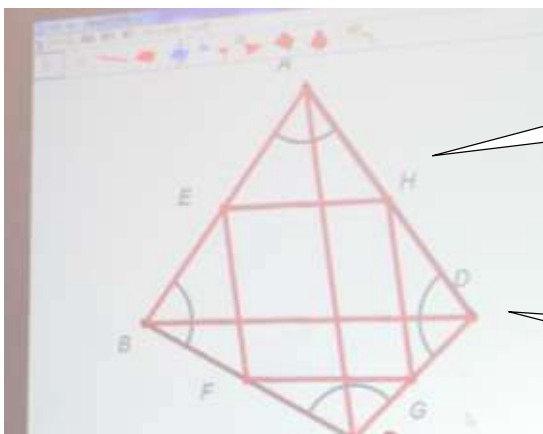


デジタル教科書を取り入れた授業

授業では、生徒に視覚的に理解をさせる。  
また、図から生徒に発見させる授業を展開している。



## 数学科の取組の例 (ICTの活用例②)



中学3年生の midpoint 連結定理で  
平行四辺形ができる問題

図形の点が動く問題についても、視覚的に考えさせる。

## 数学科での取組の例(話し合い活動)



グループで協力して課題に取り組んでいる。

授業内で生徒同士で話し合わせたり、教え合ったりさせている。



## 数学科の取組の例(振り返り)



学習内容の振り返りの時間を取っている。

振り返りでは、具体的にわかった内容を書かせるように指導をしている。

## 英語科の取組

- 授業中のコミュニケーション活動の時間を増やす。
- 既習の文法を用いて、自分の思っていることを英語で表現する場面を多く設定する。
- ALTとのチームティーチング。(ALTは常駐)
- 単語テストや音読テストを定期的に行う。
- 英単語を廊下や壁に掲示して、定着を図る。
- 小学校への乗り入れ授業  
→中1においては、小学校時に乗り入れ授業を行った教員が継続して指導にあたっている。

## 英語科の取組の例

(ペアワークによるコミュニケーションの活動)



英語の授業では英語でのコミュニケーションの時間を多く取り入れている。

英語の教科書の発音練習や、自分の考えを学習した文法事項をもとに発表し合う。

## 英語科の取組の例(グループ学習)



4人グループによる、コミュニケーションの学習

T班という形を取っている。班員がみんな顔を見ながら、コミュニケーションを取り合うことができる。また、全員が前の黒板を向きを変えず見ることができる。

## 英語科の掲示物の例



廊下の壁や階段などのスペースを使って、英単語カードを掲示している。毎日目にすることで、様々な英単語の定着を図っている。

文字だけでなく、必ず絵も入れることで、イメージとして、覚えやすくなる。



## さらなる授業力向上に向けて

### 県学力・学習状況調査データ活用 指導班の先生方による学校訪問

#### 概要

平成28年度に国語、数学、英語の3教科について、2、3学期の計2回、教科指導の専門家の先生方が本校へ訪問をして、分析、授業参観、指導をしていただいた。訪問者は、大学教授の先生方である。授業参観では、校内で中心となっている教員と経験の浅い教員の2クラスの授業を参観し、その後、研究協議では学力向上に関する分析および、授業の指導をしていただいた。

### 指導班の先生方より

埼玉大学二宮先生との研究協議より(一部抜粋)

○知識や技能を、演繹的に学ばせるのではなく生徒が帰納的に発見して、習得することが大切である。

○エレガントな解法をまず教えるのではなく生徒に苦労させ地道に課題を取り組ませること。なぜ、そのようになるのかを考えさせる。また、苦労させるとエレガントな解法のありがたさがわかる。



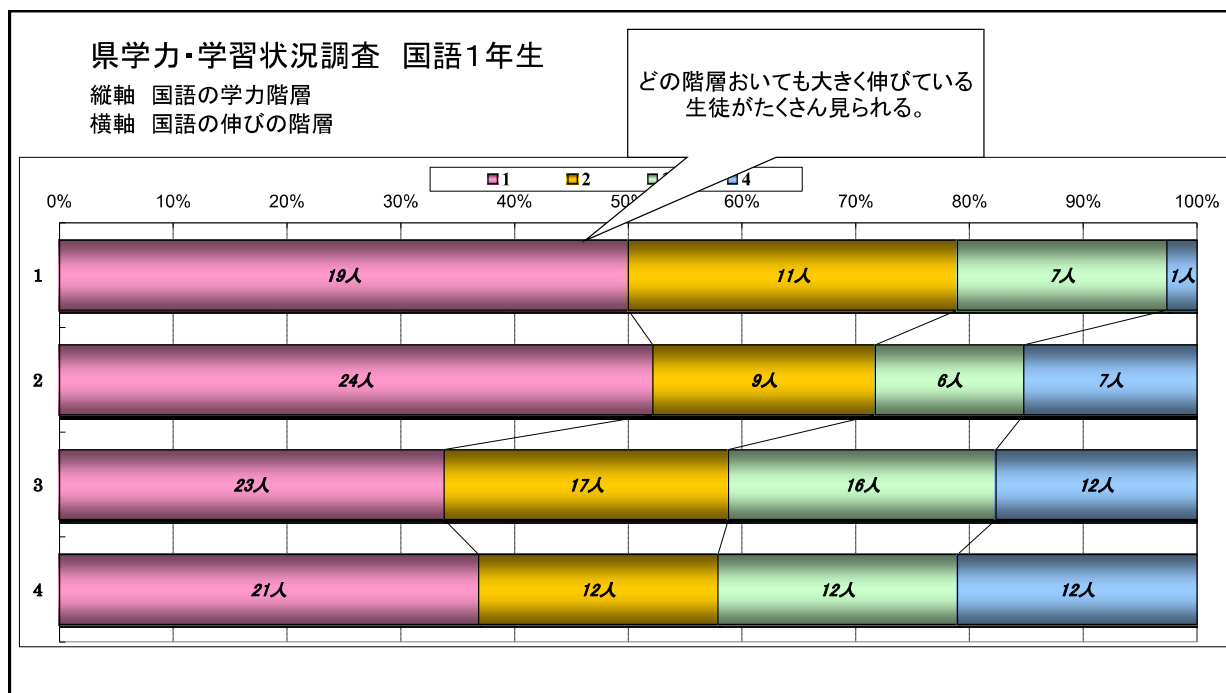
課題解決的な学習(アクティブラーニング)につながる



## ②小学校との連携の強化

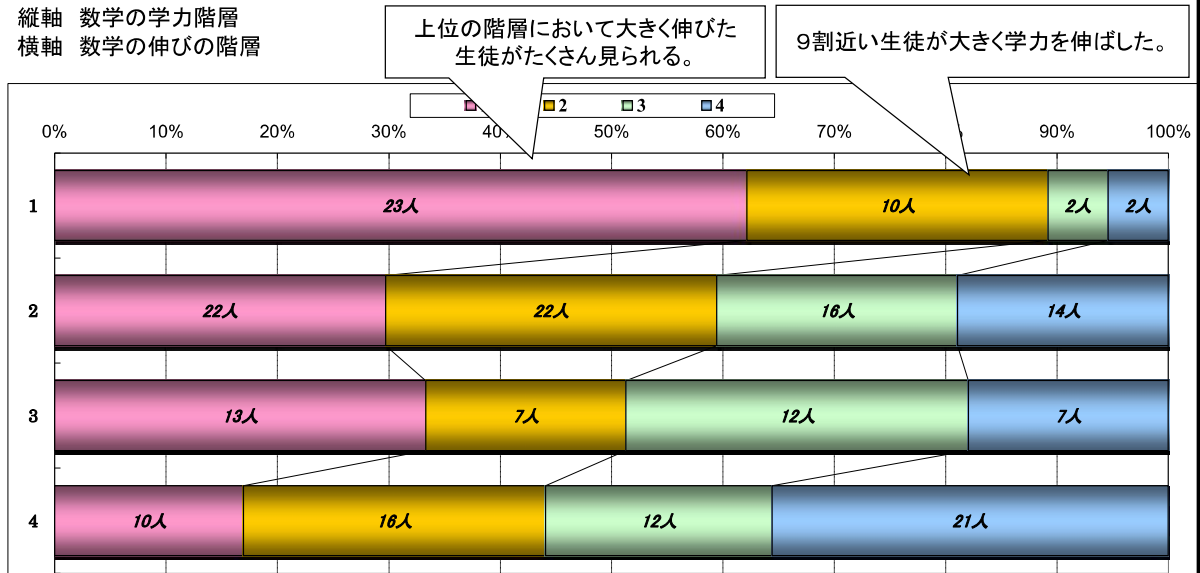
校区内の2小学校との連携を強化し、様々な取組を行っている。

- 年間を通して行われる、小学校への本校職員による算数・外国語活動への乗り入れ授業
- 夏休み中に行われる小中合同の研修会
- 9月に行われる小中連絡会(中1担当と旧小6担当の会議)
- 2、3学期に行われる部活動挨拶運動
- 3学期に行われる小学生1日入学



## 県学力・学習状況調査 数学1年生

縦軸 数学の学力階層  
横軸 数学の伸びの階層



## 算数への乗り入れ授業の様子



本校職員

小学校教諭

小学校の先生と協力して、きめ細かな指導を心がけている。



本校の職員が児童一人ひとりに丁寧な指導を行っている。

## 外国語活動への乗り入れ授業の様子



本校の職員、ALTの先生、小学校の先生と3人で連携して、生徒の外国語への理解をより一層深めることができる。

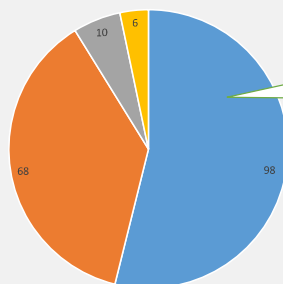
ALTの先生と協力して、スムーズに授業進行を行うことができます。子ども達も授業に積極的に取り組むことができている。



質問1 算数や外国語活動の乗り入れ授業はよいと思いますか。

1 はい 98  
2 どちらかと言えば はい 68

算数や外国語活動の乗り入れ授業はよいと思いますか。



90%以上の生徒が肯定的にとらえている。

■ 1 はい ■ 2 どちらかと言えば はい ■ 3 どちらかと言えば いいえ ■ 4 いいえ

質問2

乗り入れ授業を行うことによって、算数や外国語活動が、よりわかるようになりましたか。

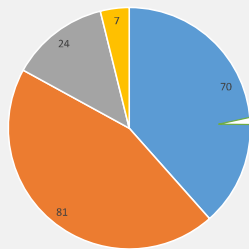
1はい

70

2どちらかと言えばはい

81

乗り入れ授業をおこなうことによって、算数や外国語活動が、よりわかるようになりましたか。



83%以上の生徒が肯定的にとらえている。

■ 1はい ■ 2どちらかと言えばはい ■ 3どちらかと言えばいいえ ■ 4いいえ

質問3

今後も乗り入れ授業を続けたほうがよいと思いますか。

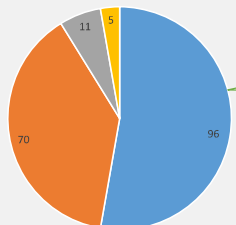
1はい

96

2どちらかと言えばはい

70

今後も乗り入れ授業を続けたほうがよいと思いますか。



90%以上の生徒が肯定的にとらえている。

■ 1はい ■ 2どちらかと言えばはい ■ 3どちらかと言えばいいえ ■ 4いいえ

自由記述より、特に多かった意見

<算数・外国語活動共通>

- 先生が多くて、分からなくてもすぐに質問でき、すぐに教えてくれた。
- 先生が優しく教えてくれた。
- 中学校の学習内容も教えてくれて、興味が湧いた。
- 中学校に入っても、その先生がいるので、質問しやすい。
- 中学校の先生が分かり、安心して中学校に行けた。
- 中学校の雰囲気があった。

自由記述より、特に多かった意見

<算数>

- 色々な先生の教え方を知ることができて、理解が深まった。
- 難しい問題も分かりやすく教えてくれた。
- 授業がスムーズに進み、授業に集中できた。
- 小学校の先生とは別の解き方を教えてくれた。

<外国語活動>

- 分からない単語の発音を分かりやすく教えてくれた。
- ALTの先生との授業がスムーズに進み、理解が深まった。
- 本格的な事や、発音なども丁寧に教えてくれた。
- 中学に行っても、同じ先生が教えてくれたので、良かった。

## 小中乗り入れ授業の成果

- ・中学校での学習に対する不安感を軽減できる。
- ・小学校からの学習習慣をそのまま継続できるため、中学に入学してからも円滑に学習を行うことができる。



## 1学年の学力調査での大きな成果

埼玉県学力・学習状況調査より  
1年生 国語

○平均正答率は県平均にわずかに及ばなかったが、いくつかの項目において、県平均を上回ることができた。

話すこと・聞くこと・書くこと(県・本校)	68.9	→	69.6
書く能力(県・本校)	64.9	→	68.8
平均正答率(県・本校)	64.4	→	63.3

埼玉県学力・学習状況調査より  
1年生 数学

○多くの項目において、県平均を上回ることができた。

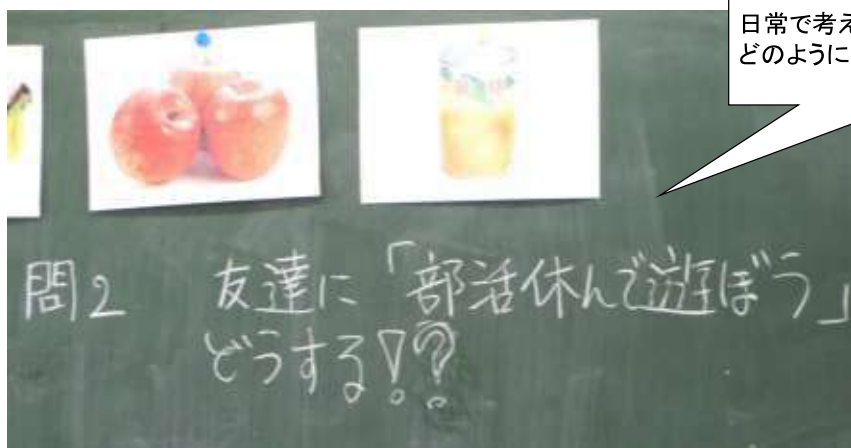
数と計算(県・本校)	59.9	→	63.4
図形(県・本校)	64.7	→	68.1
数量関係(県・本校)	77.9	→	79.0
平均正答率(県・本校)	65.9	→	68.0

### ③スキル学習

概要

道徳的な実践能力を高めるため、総合的な学習の時間にスキル学習を本年度も取り組んでいる。スキル学習は日常で直面する様々な問題を解決するために必要な技術を習得するための学習である。例えば、「上手な断り方」、「ストレスとの上手な付き合い方」、「感じのよいあいさつ」がある。学年ごとに項目を分けて学習を進め、生徒にスキルを身に付けさせ、学習規律や規範意識を高め、より良く学校生活を送ることができるようにする。

## スキル学習の取組の例(スキルとは)



日常で考えられる、場面において  
どのように接すればよいかを考える。

## スキル学習の取組の例 (スキルについてグループで考える)



日常で考えられる、課題について  
グループ、クラスで考える。

課題に向けて話し合いを通して、  
実践しようとする姿勢を育成する。



## スキル学習の成果

- 1年生では1学期と比べても、授業での積極性も見られ、あいさつや話を聞く姿勢が改善されるなどの成果が見られた。
- 2年生では自分の意見をきちんと伝え、相手の意見を尊重し、互いの価値観に気づくことが少しずつできるようになり、行事の取組にも表れた。
- 3年生では始めは受験生の意識があまりなく、真剣に取り組めない場面もあったが、面接学習や三者面談等を通して、進路の意識が高まると、2年間のスキル学習を活かし、熱心に取り組み、力を付けていった。



授業規律などが改善され、学習意欲が高まってきた。

～学校評価アンケートより～

「授業に意欲的に参加している」

現中1 82.7%

現中2 H28年度62.8% → H29年度67.5%

現中3 H28年度70.5% → H29年度72.9%

## ④1日1ページの家庭学習

### 概要

ノートや配られたワーク、その他の学習教材(塾等で行った課題も含む)を1ページ以上学習して、取組を教師が確認する。教科の取組に偏りがある場合は、助言等をしている。



### 取組の背景

全国学力・学習状況調査、県学力・学習状況調査の結果より、家庭学習の取組に課題があるため。

## 家庭学習の提出の様子



生徒が自ら課題をもって取り組んでいる。

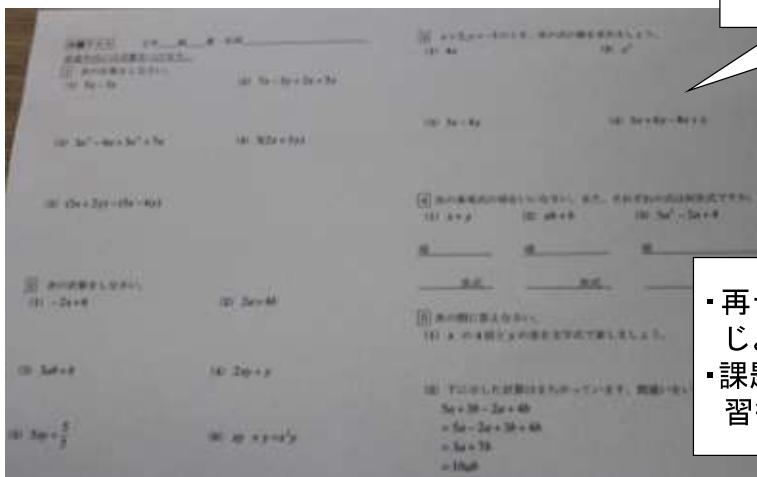
ほとんどの生徒が毎日意欲的に取り組んでいる。テスト前になると、さらに増える。



## 国語の基礎学力テスト

指定したテスト範囲の中から、読み・書き合わせて50問程度を出題

## 数学の基礎学力テスト



主に計算の問題を出題

- ・再テストでは、数字を変えて同じような問題を出題
- ・課題の残る生徒は必要に応じて補習等も実施

## 英語の基礎学力テスト

- ・主に単語のテスト
- ・数は30個～50個程度、学年に応じて決定

- ・勉強のために、単語練習プリントを配布
- ・課題のある生徒には、出題数を少なくして、複数回テストを行うなどして、全員が合格できるよう支援

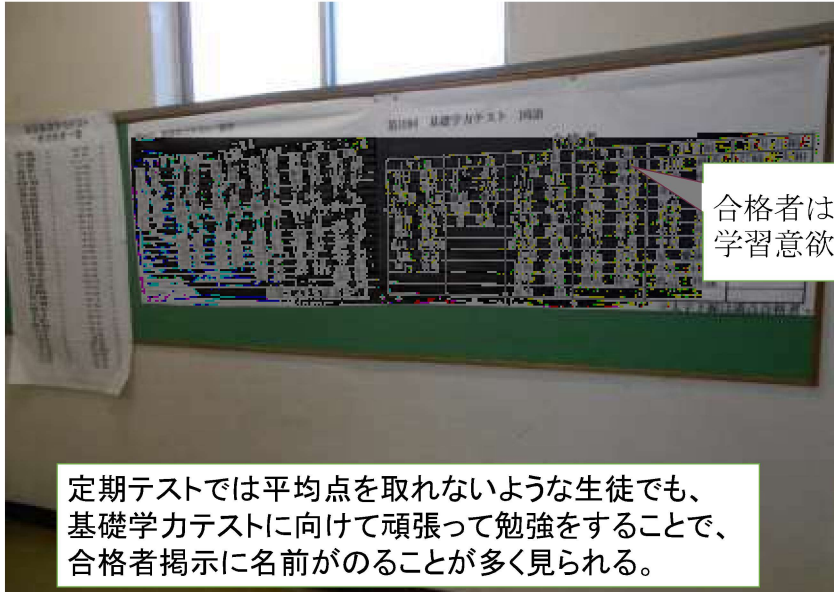
9月29日実施

No.	日本語	英語	No.	日本語	英語
1	大森 文子	24	24	高橋	
2	中村 大輔	25	25	藤田	
3	山本 太郎	26	26	山本 太郎	
4	山本 太郎	27	27	山本 太郎	
5	山本 太郎	28	28	山本 太郎	
6	山本 太郎	29	29	山本 太郎	
7	山本 太郎	30	30	山本 太郎	
8	山本 太郎	31	31	山本 太郎	
9	山本 太郎	32	32	山本 太郎	
10	山本 太郎	33	33	山本 太郎	
11	山本 太郎	34	34	山本 太郎	
12	山本 太郎	35	35	山本 太郎	
13	山本 太郎	36	36	山本 太郎	
14	山本 太郎	37	37	山本 太郎	
15	山本 太郎	38	38	山本 太郎	
16	山本 太郎	39	39	山本 太郎	
17	山本 太郎	40	40	山本 太郎	
18	山本 太郎	41	41	山本 太郎	
19	山本 太郎	42	42	山本 太郎	
20	山本 太郎	43	43	山本 太郎	

## 基礎学力テストを受けている生徒の様子



どの生徒も定期テストながらに真剣な態度で基礎学力テストに臨んでいる。

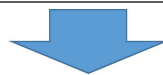


合格者は名前を貼り出し、  
学習意欲を喚起

定期テストでは平均点を取れないような生徒でも、  
基礎学力テストに向けて頑張って勉強をすることで、  
合格者掲示に名前がのることが多く見られる。

## 基礎学力テストの成果

- 基礎・基本の定着が図ることができた。
- 家庭学習の取組に基礎学力テストの勉強が増えた。
- 学習に課題のある生徒でも、しっかりやればできる内容のテストなので、授業以外でも、できるよろこびが生まれた。
- 合格者を掲示して、生徒の学習意欲を喚起することができた。
- 不合格者も合格するまで繰り返しテストを行うことで、基礎・基本の定着につながり、合格することで全ての生徒が達成感を味わうことができた。



学習意欲の向上、学習習慣の定着化に役立っている。

## ⑥定期テスト前の取組

～各教科の学習会～

- 放課後1時間程度、各教室を使いテストの教科の質問・補習
- 内容としてはテストの教科の質問教室
- テスト範囲の学習教材を用意し、学習のわからないところを質問する。
- 基礎学力テストで繰り返し不合格になってしまっている生徒は、こちらが学習教材を用意して学習内容の補習を行っている。

～テスト勉強応援キャンペーン～

- テスト勉強時間をチェックし、各クラスに掲示した表を塗っていきます。目標時間を越えた生徒は学年集会で表彰している。

### 数学の質問教室の様子

生徒同士が教えあう場面もあった。



生徒の質問に教科担当の教員が丁寧に説明をした。

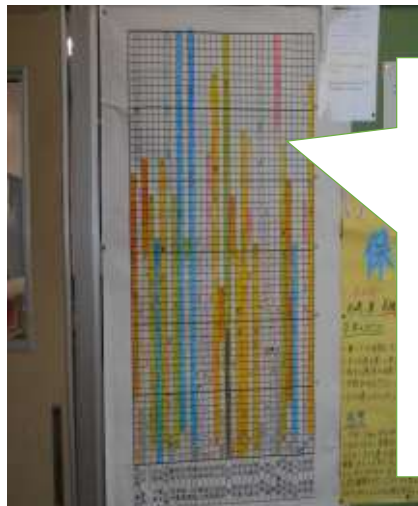
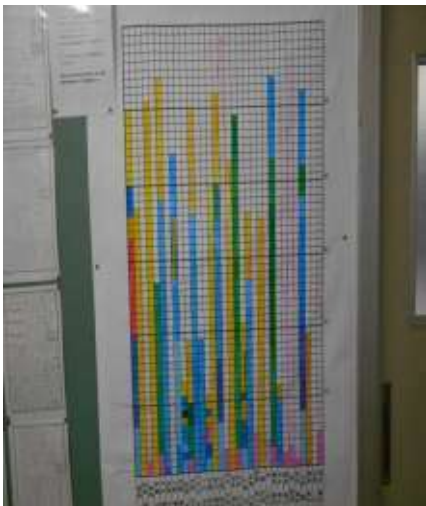
## 英語の質問教室の様子



教科担当だけでなく、サポートとして、学年職員が質問に答える場面もある。学年職員全体で協力して取り組んでいる。

参加した生徒が自ら課題をもって意欲的に取り組んだ。

## テスト勉強応援キャンペーンの様子



1時間テスト勉強をすることに1マス塗りつぶす。毎朝多くの生徒が表の前に集まり、お互いの頑張りを確認し合っている。

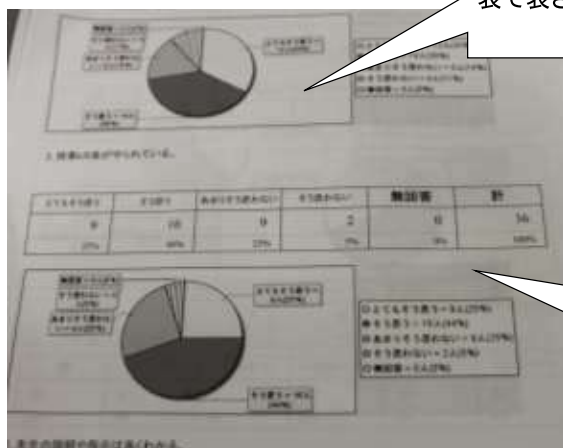


## ⑦SQSアンケート

### 概要

- ・9教科の授業評価アンケートを生徒全員に実施
- ・生徒の授業への関心や理解度などを把握
- ・授業評価から教員の指導を改善

### 結果について



授業のアンケート結果がグラフや表で表される。

授業規律や、理解、興味関心のアンケートなど各クラスごとにアンケート結果がわかる。その他にも自由記述欄もあり、生徒の意見を取り入れ、授業改善を行っている。

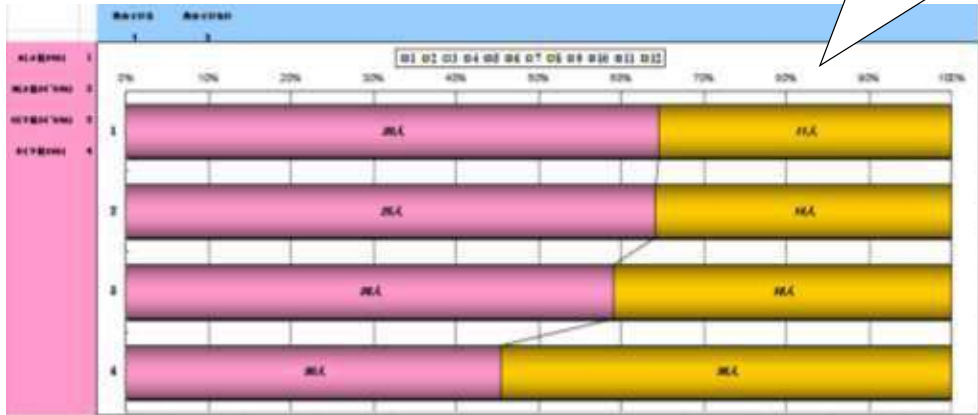
## 埼玉県学力・学習状況調査より

### 県学力・学習状況調査 数学2年生

縦軸 数学の学力階層

横軸 携帯電話やスマートフォンを家で決まりを決めていますか  
(ピンク...はい 黄色...いいえ)

下位の階層ほど、家庭での決まりがない。そのため、学習時間に影響がでていると考えられる。



## ⑧生活面での指導

### 背景

○本校の生徒は携帯電話、テレビゲームの使用時間が長い傾向にある。また、家庭での使用のルールを決めていない生徒と学力は関連性がある。

### 概要

- 全校ガイダンスで、全校生徒に対して新栄中の生活について毎年確認する。
- 学校だよりや日々の学級指導で生徒や保護者に対して、携帯電話の使用を含めた時間の使い方の指導を続けている。



今年度更なる取組として…

本校では校区内の小学校と連携し、  
期末テスト前一週間を「**家庭学習チャレンジ週間**」  
とし、その週の水曜日を「**ノーテレビ・ノーゲーム・  
ノースマホデー**」として、学校全体で取り組んでいる。  
各家庭に協力をお願いし、家庭学習週間の意識付け、電子  
機器類の使用についての意識向上を図っている。

新栄中学校校区中学校  
保護者宛てで文書を  
配布している。

新栄中学校校区中学校 保護者 様

平成29年11月24日

草加市立新栄中学校 校長 川原田 一郎  
草加市立清門小学校 校長 石崎 明子  
草加市立新栄小学校 校長 三好 正浩

## 家庭学習チャレンジ週間 「ノーテレビ・ノーゲーム・ノースマホデー」

向寒の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動にご理解・ご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、新栄中学校1,2年生の期末試験のテスト勉強期間に合わせて、新栄中学校区の新栄小学校・清門小学校の3校合同で「家庭学習チャレンジ週間」を設け、家庭学習の充実を図ることになりました。

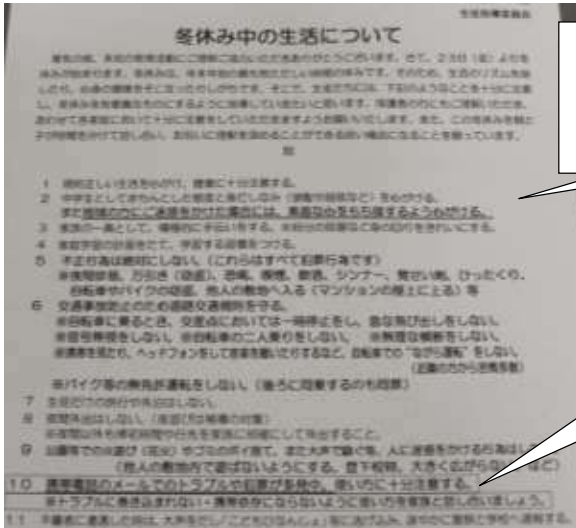
また、11月29日(水)を「ノーテレビ・ノーゲーム・ノースマホデー」として新栄中学校区の新栄中学校・新栄小学校・清門小学校で学習に専念する取り組みを行うことになりました。

新栄中学校といたしましても、家庭学習のより一層の定着をめざし、指導を継続してまいります。

つきましては、保護者の皆様のご指導・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

校区内3校の校長先生の  
名前で文書を発行している。

## 生活面での指導内容



長期休みなどの生活についての確認

保護者会等でも話をして、生徒、保護者、教員が同じ認識を持たせている。

## 研究の成果

- どの教科の授業でも、ねらい、まとめの時間を設けることにより、生徒がねらいを意識して授業を受けている。
- 1日1ページの家庭学習により、多くの生徒が学習習慣の定着ができた。
- 基礎学力テストの実施で、家庭学習に目的をもって計画的に取り組むことができるようになった。
- 質問教室では、生徒の学習の疑問点を聞く場面を作ることができた。それにより、学習意欲を高めることにつながった。
- 小中連携の取組によって、小学校での学習習慣を継続したまま、中学校での学習をスムーズに行うことができた。

## 研究の課題

- 家庭学習の取組内容には、個人差がある。
- 生活面で、スマホ、ゲームにかける時間が依然多く、学習面に影響するだけでなく、生徒間でのトラブルもあった。
- 平成29年度埼玉県学力・学習状況調査では伸びはみられたものの、県平均にはまだ達していない項目がある。
- 学習に課題のある生徒の不登校の問題がある。
- 小学校への乗り入れ授業では人的制限がある。